

「JENESYS2.0」

中国青年芸術関係者代表団

訪問日程 平成 26 年 10 月 14 日（火）～10 月 19 日（日）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国青年芸術関係者代表団計 62 名が、10 月 14 日から 10 月 19 日までの 5 泊 6 日の日程で来日しました。（団長：王占起（オウ・センキ）中国日本友好協会政治交流部 部長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は、芸術関連団体・施設や芸術大学の訪問など交流の場を通じて、日本の芸術関係者との親睦を深めたほか、日本の社会・歴史・文化等が体感できるような施設や、地方都市の参観を通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

10 月 14 日（火）

成田国際空港より入国、東京タワー見学（第 1 グループ）、お台場見学（第 2 グループ）、オリエンテーション・歓迎会

10 月 15 日（水）

皇居・二重橋見学、浅草寺見学、三鷹の森ジブリ美術館視察、劇団四季ミュージカル『マンマ・ミーア！』鑑賞・出演者との交流

10 月 16 日（木）

能楽の紹介（観世流 於：矢来能楽堂）、関西へ移動、和風温泉旅館で日本文化体験

10 月 17 日（金）

裏千家による茶道文化の紹介・体験、京都市立芸術大学訪問・交流

10 月 18 日（土）

二条城見学、清水寺見学、三十三間堂見学、伏見稲荷大社見学、歓送報告会

10 月 19 日（日）

関西空港より帰国

3 写真

	
10月14日 お台場見学 (東京都)	10月14日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長(左1)と 交流する団員 (東京都)
10月14日 参観台場 (東京都)	10月14日 欢迎会上团员与日中友好会馆 江田五月会长 (左1) 畅谈 (東京都)
	
10月15日 皇居・二重橋見学 (東京都)	10月15日 浅草寺見学 (東京都)
10月15日 参観皇居・二重桥 (東京都)	10月15日 参観浅草寺 (東京都)
	
10月15日 三鷹の森ジブリ美術館視察 (東京都)	10月15日 劇団四季ミュージカル 『マンマ・ミーア!』鑑賞・ 出演者との交流 (東京都)
10月15日 参観三鷹之森吉卜力美术馆 (東京都)	10月15日 观赏四季剧团的“妈妈咪呀!” 与演员交流 (東京都)

	
10月16日 矢来能楽堂での能楽の紹介 観世喜之氏が団員を歓迎 (東京都)	10月16日 矢来能楽堂での能楽の紹介 観世喜正氏による説明と体験 (東京都)
10月16日 在矢来能楽堂听取能楽介绍 观世喜之先生向代表团团员表示欢迎 (東京都)	10月16日 观世喜正先生在矢来能楽堂 介绍能楽 团员代表体验表演 (東京都)
	
10月17日 裏千家 茶道文化の紹介 (京都市)	10月17日 京都市立芸術大学訪問 版画専攻の実技見学(京都市)
10月17日 于里千家听取茶道文化介绍 (京都市)	10月17日 访问京都市立艺术大学 参观版画专业课堂(京都市)
	
10月17日 京都市立芸術大学訪問 牛をモデルにした実技の見学(京都市)	10月18日 二条城見学 (京都市)
10月17日 访问京都市立艺术大学 参观专业课堂上“牛”模型制作 (京都市)	10月18日 参观二条城 (京都市)

	
10月18日 清水寺見学（京都市）	10月18日 三十三間堂見学（京都市）
10月18日 参観清水寺（京都市）	10月18日 参観三十三間堂（京都市）
	
10月18日 伏見稲荷大社見学（京都市）	10月18日 歓送報告会 団員による成果報告(大阪市)
10月18日 参観伏見稲荷大社（京都市）	10月18日 欢送报告会上团员介绍访日活动成果（大阪市）

4 参加者の感想（抜粋）

○ 今回の日程はタイトで大まかな参観が多く細かく見ることはできなかったが、それでも日本の伝統文化に対する敬意や当時の姿のままに伝承されていることが分かり感動を覚えた。裏千家茶道や矢来能楽堂、そして三十三間堂、どれも日本人が厳格に代々継承してきたものである。日本は物事を学びそれを自国のものとするのに長けた民族であり、絶えず改善と向上を重ね大きく発展させてきた。まさに「思いては学び、学ぶに精進する」である。一方自身を振り返ると、中国には豊富な文化財、長きにわたる文化の蓄積がありながら、真に心からこれを重視している人は少ない。保全と伝承において日本人に遠く及ばないことは直視すべき現実であろう。

三鷹の森ジブリ美術館の参観では「相は心から生じる（外見は心が決める）」という言葉が思い浮かんだ。宮崎駿監督の創りだす童話の世界がとても純粋で美しいのは監督の心の表れであり、日本人々も平和で幸せな生活を望んでいるに違いない。中国と日本の文化は同じ源から出発し、それぞれに発展をとげるなかで「和すれども同ぜず」というようにその容貌には違いが生まれた。しかしそれでも似ている部分が随所にある。同ぜずとも和なり——私は両国が文化の面において「同ぜずとも和」であるだけでなく、両国の付き合いにおいて歴史と国民を尊重し平和を大切にし、そして「同ぜずとも和」でありたいと希望する。

○ 今回の訪問は非常に楽しく思い出深いものとなった。まず日本側事務局がきめ細やかかつ親切で日々の手配も行き届き、体調を崩した団員のために薬を買ってくれるなどホスピタリティを感じる対応であった。次に感じたのは、日本の環境がとても整備されかつ清潔で、空は青く空気も新鮮で爽やかに過ごせたことである。そして人々の素養が高く、道を尋ねた時も言葉はあまり通じないもののとても親切にホテルまでの帰り道を教えてくれた。更には、今回の訪問・参観先はどこも選りすぐりの場所であり、浅草寺、皇居二重橋、京都の清水寺や二条城は以前に訪れたことがあったが、今回はさらに親しみを感じ、秋の風景を満喫することができた。三鷹の森ジブリ美術館、劇団四季ミュージカル鑑賞、矢来能楽堂、温泉、裏千家、京都市立芸術大学、三十三間堂、伏見稲荷の参観や交流を通じて様々な角度から日本文化に触れ視野を広げることができた。近代的でにぎやかな東京、そして静かで美しく心癒される京都それぞれに印象が深まり、また私自身の専門分野での発展と協力の可能性についても考える機会となった。劇団四季は民間の劇団として毎年数多くの公演を行っており、俳優らは毎回の上演に最高の情熱を注ぎ、商業的にも大成功している。中国のミュージカルはマーケットも俳優も育成が待たれるところであろう。三鷹の森ジブリ美術館参観は、天真爛漫な子供時代に戻り現実逃避ができるハートフルでファンタジーあふれる旅であった。中でも一番気に入ったのが短編映画だ。宮崎駿監督は巨匠でありながら童心を全く失わずにいる。それこそが宮崎駿作品が世界で広く人気となっている所以ではないだろうか。

○ 印象深い参観・訪問先が実に多かった。歴史、文化、芸術、茶道、庭園、これらの伝承と現代における発展は想像以上であり、特に日本人の精神には敬意を感じ、日本人は非常に気質と魅力あふれる民族であると感じた。日本人の歴史と伝統に対する畏敬の念、芸術創作に対する純粋さ、敬虔な宗教信仰心、どれも非常に得難い精神であり、また時間やサービスの考え方や細部へのこだわりは現代の日本社会が誇れる資質であろう。以上が今回の訪問でもっとも印象深かったことである。また、帰国したら日本の悠久の歴史と文化、そして素晴らしい文化遺産を友人たちとも共有したいと思う。特に唐風の建築物や、三十三間堂の雄壮な千手観音、比類なき素晴らしさの狩野派の障壁画、これら作品の背後には日本人の精神と気質が息づいている。日本は学び、取り入れることに長けた国であり、寛容な精神があったからこそ世界の先進的な技術と創造力を自分のものにしながら、民族としての伝統と個性を失わずにきたのであろう。また、宮崎駿監督の芸術の歩みと京都市立芸術大学の学生たちの姿を結び付け、これも友人たちに伝えたいと考えている。両者は立場も名声も違うが多くの共通点があるからだ。私はこうした共通点こそが日本のアニメ作品が世界で人気を博している根本的な理由であると思う。

また、日本の自然環境の保全については称賛すべきであり、日本庭園の美しさは印象深いものであった。

○ 1. 今回の訪問の中では、日本の伝統的な能楽、茶道、そして宮崎駿監督の三鷹の森ジブリ美術館が印象深かった。これら文化芸術の結晶の中に中華文化の痕跡と同時に日本独自の特徴を見ることができた。異なる文化の融合があったからこそ偉大な芸術作品が誕生したことを考えれば、私も中国においてより多くの内容豊かな文化交流を推進する力になりたいと思う。今日の交流が播くパッションとインスピレーションという種が、中日両国の文化的要素を持つ芸術の花という明日の収穫をもたらすだろう。

2. 日本側事務局の親切と真面目さに敬意を感じた。また、6日間の学びの中で日本の風土人情、社会風習を理解すると同時に、日本の友人に対する信頼と友情が生まれた。もし大多数の中国人と日本人が同じような友情を感じることができれば、歴史の残した恨みや矛盾も取り除かれるのではないだ

ろうか。そのためにも帰国後も日本の友人と連絡を取り合い、更には中国の友人にも紹介して友情のバトンをより多くの人に渡していきたい。

3. 日本の伝統文化の継承と保全における民間の力に感動し、我々も学ぶべきであると感じた。文化に国境はなくすべて人類共有の財産である。芸術という花を守る責任は分け隔てなく一人一人にかかっているのだ。この点も私が今後中国のメディアで訴えていきたいテーマである。

○ 日本はアジアでは早くに発展した国でありながら自国の伝統文化をきちんと守っている。西洋文化を取り入れると同時にそれを自国のものと融合させており、こうした文化の発展と継承は人々の安定した生活と幸福の支えであり象徴である。文化によって人々は幸福とそこにある尊厳を享受でき、同時に社会も安定する。世界が急速に発展する今日にあって、人々が幸福を見つけることは得難いものとなっているのではないだろうか。

今回の参観と訪問・交流を通じて印象深かったものは三つある。まずは劇団四季ミュージカル「マンマ・ミーア！」鑑賞である。私がこのミュージカルを見るのは三回目である。これまでアメリカと中国のバージョンを見ているが今回の公演もまた印象深く、新鮮で称賛に値するものであった。芸術に対する尊重が表面にとどまらず一人一人の心にあったからだ。ストーリーは原作通りであるが、リメイク作品として日本の芸術家の知恵によって自国の民族にあう優れた作品に仕上がっていた。二点目は矢来能楽堂での能楽鑑賞と交流である。伝統文化、とりわけ無形文化財の保全は政府だけの仕事ではなく国民全体で行うべきである。多くの無形文化財はポップカルチャーと融合するものでないにもかかわらず日本では保全がきちんとなされている。そして最後は三鷹の森ジブリ美術館である。これまでは映画を通してしか宮崎駿監督を理解していなかったが、今回全面的に理解することができてさらに好きになった。宮崎監督は偉大な芸術家の名に値すると思う。日中友好会館の招きに感謝し、ぜひ次回を期待したい。

○ 今回最も印象深かったのは日本の国民全体の一般的教養が高いこと、インフラが整備されており街が清潔なことであった。日本と中国は古来より密接な関係にあり、地理的には一衣帯水、経済的には有無相通じ、文化的にも深い影響を受けてきた。しかし実際に訪れてみなければこれほど深い実感はないだろう。公共エリアの思いやりの行き届いた人に優しいデザインに驚いた。特にケアの必要な人や体の不自由な人を考慮した作りになっており、例えばエレベーターには車いすの人のために低い位置にボタンがあり、女性用トイレには、母親が子供を連れてトイレが使えるように男児用のトイレや子供を座らせるイスがあった。これほど文明的で秩序の整った社会全体の気風は教育と不可分であり、日本の教育に対する投資は大きな成果を上げているといえよう。もっと多くの中国人が日本に来て、観光だけでなく日本をより深く理解することによって両国民の間の友情が増進することを望む。

○ 日本の伝統文化の継承と保全は評価すべきである。日本人の教育に対する姿勢は真摯かつ厳粛なものだ。特に「借金してでも教育をすべき」との言葉には感じ入るものがあった。中国の教育問題における様々な足りない面と比べれば実に考えさせられるものであろう。教育に携わるものとして、良い面のみを語るのでは今回の交流の意義がなくなってしまうと思う。今回日本に来たのは学び方や知識の伝え方を理解するためである。勿論、芸術分野、特に伝統文化の面において日本は究極の精神と技能を継承発展させ、厳粛なる自律性を以て守ってきた。これこそが日本の芸術が中国のものから変化を遂げ世界の民族の中に独立して存在し、多くの無形文化財という宝を残してきた所以ではないだろうか。帰国したら自ら手本を示すべく、文化の伝承と教育を担う者として中国の書道芸術をしっかりと伝承し、芸術的な視野を広げ、文化の真髄を集大成して自身の芸術の道を切り開くとともに、周囲の人にも日本を含む一衣帯水の民族との関係を直視してもらうよう努めたい。

○ 美しい日本を離れるに際し名残惜しさと素晴らしい思い出を深く記憶にとどめたい。今回の訪問は私の人生における貴重な財産であり経験となっただけでなく、今後の成長の助けとなる意義深いものとなった。

清潔な道路にはほこり一つなく、青い空には白い雲が映え、人々は礼儀正しく協調性を以て暮らししており、経済発展と環境保全を両立させている。人口も少なく国土も広くない国として容易ではないことであり、まさに国全体を見渡した計画の取り組みと方向性の正しさ、そして国民の力の結集と愛国精神の表れであろう。

伝統文化とポップカルチャー・アートの発展においても、日本の努力が政府だけではなく国民自らの自覚と自信によるものが大きいことが分る。そうであるからこそ伝統文化は受け継がれ、ポップカルチャーは時代と共に進むことができるのだ。

国民の福祉や社会保障の面で、人間本位の理念が政策として体现されていることが素晴らしく、国の発展にプラスに働いている。

私は日本の文化や理念、先進的な技術など多くの学ぶべき分野を体験しに、また再び日本に来たいと思う。日本側の皆様の心温まるもてなしに改めて感謝するとともに、日本の芸術関係者の方々が中国に来て交流できることを心待ちにしている。